

第520回 放送番組審議会

1. 日 時 2016年6月21日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 9名

出席委員 6名

委員 長	國分 正人
副委員 長	千葉 隆史
委員	五日市知香
委員	三浦 茂樹
委員	照井 勝也
委員	佐藤 俊彰

欠席委員 3名

委員	嶋 誠治
委員	恒川 かおり
委員	大橋 綾子

社側出席者

檜崎 憲二 (代表取締役社長)
山口 英二 (専務取締役)
青山 尚之 (常務取締役 兼 編成局長)
関 英祐 (報道制作局長)
石川 亮 (営業局長)
野田 喜代志 (報道制作局専任局長)
淵澤 行則 (報道制作局顧問)
柴柳 二郎 (報道制作局局次長)

事務局

遠藤 隆 (編成局 放送番組審議会事務局長)
小野 絢子 (編成局編成部)

4. 議 題

1. 「柴柳二郎の夢トーク ゲスト：歌手 福田こうへいさん」
2016年5月21日(土)10:00-10:30
2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

- ゲストである福田こうへいさんの人柄が伝わる内容だった。
- 福田さんと父・福田岩月さんの関係や、福田さんが歌手になるまでの経緯を詳しく知ることができた。
- 歌をもっと聞きたかった。
- 歌手としての体調管理やのどのケアについても知りたかった。

局側

- 今回は他の回よりも、収録時間が長くはとれなかったため、インタビューでお伺いしきれないこともあった。また、歌っている映像の使用についても制限があった。
- プロフィールを見ただけではわからない、意外性のある話を少しでも引き出したいと試行錯誤している。今回も短い収録時間の中で、こだわって話を聞いた。

6月番組審議会（今回）のテレビ放送予定

6月28日（火）11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」

7. 議事内容

局側 第520回の番組審議会をはじめます。本日は委員3名がご欠席で、6名が出席されております。

局側 今回の「柴柳二郎の夢トーク」という番組は、昨年7月から開始しております。毎月1回、30分のトーク番組です。岩手にゆかりのある方々で、その時々タイムリーな話題をもっておられる、あるいは、自分のやってきた事、人生を語れる方ということで人選してきました。今回は、幅広く人気のある民謡演歌歌手の福田こうへいさんの一関市のコンサート会場に伺ってお話を伺いました。

委員長 それでは早速ご意見をいただく。

委員 今回のトーク番組は、初めて拝見した。福田こうへいさんをよく存じ上げなかったもので、こういう歌手の方が盛岡出身でいらっしゃるということが勉強になり面白く拝見した。ただ見終わった後に若干、物足りない感じがあった。福田さんがコンサートに来てくれた人達の顔を大概覚えて、積極的に声をかけると言われていたが、どうやって顔を覚えているのか、どういう秘訣があるのか、詳しく聞きたかった。年間150公演こなしているということだったが、喉を維持するためにもかなり苦勞があると思う。そのあたりの話も聞きたかった。北島三郎さんが福田さんのことを「演歌界、民謡界の宝だ」と高く評価しているという話もあったが、これも北島さんご自身の話を聞くのは無理にしても、どういう所が宝なのか具体的に伝わるとより分かりやすかったと思う。

委員 この手の番組は見る機会が少なく、久々に見た。番組全体を通しては、軽妙なトークで盛岡出身なのでこの訛りに非常に親しみを感じた。30分という番組が短く感じられた。歌は存じ上げていたが、福田さんの人となりは、この番組を通して詳しく知ることができて、人間性も幾多の場面に出ていた。4つほど感じたこととお話させていただくと、1つは地元の番組であるということもあり、おそらく意識されたと思うが、方言が非常に我々にとっては耳触りの良い感じだったし、福田さんのお話が多く時間をさいており、これも非常に好感を持てた。2点目は、福田さんのお父さんとの関係、歌手になった経緯が詳しく知れたし、農家の長男で家を守るという純朴な岩手の人ならではの人間性がうまく表現されていたこと。3点目は苦節の経緯で、紅白歌合戦に岩手から4人出たというのも初めて知ったが、すぐヒットしたわけではなく10年も経てメジャーになり、メジャーになった後も、コンサートの内容もトークショーのような内容で、非常に地に着いた歌手だと思ったこと。最後に音楽に対する考え方を少し話していて、ジャンルを問わず音楽の持っている意味をお話されていたが、もう少し深く掘ってもよかったと感じた。インタビューを終えた後の笑顔が非常に印象的だった。

委員 岩手県が生んだ久々の紅白歌手ということで、理屈抜きで楽しく拝見した。2012年6月に福田さんの歌を聞いたことがある。ますます応援したくなった。良かった点は2つ。1つ目は福田さんの人物伝を中心に構成されており、成功物語のような薄いものではなかったところ。特に民謡歌手だったお父さんに対する複雑な思いが語られていたのが印象的だった。お父さんの福田岩月さんも民謡歌手で、環境的には歌い手になる環境だと思ったが、子どもの頃、父親が神社で歌っていることと母親が民謡を踊っていることを馬鹿にされたという話があり、ご本人でないで分からない苦労話だと思った。環境が良くて歌手の道を真っ直ぐ歩んできた方ではないのだと深く感じられた。「親父からもらった声で歌の世界を進む。親父ができなかった日本一を変わりに獲って返す」というポジティブで前向きな発想に変えているところが福田さんの魅力だと思う。以前、番組のアシスタントの方が今回はお話をされていて、柴柳さんのいいフリに対して薬味になっていた。残念だった点は、せっかく日本を代表する歌手の方なので、番組中にワンコーラスでもいいので歌ってもらうことはできなかったのかなと、せっかくの機会なので聞きたかった。でも福田こうへいさんの魅力を十分に感じさせてくれた番組だった。楽しかった。

委員 私自身、福田さんの顔は分かるが、曲は聴いたことがなかったものの、すごく人気のある方だと思っていた。今回の番組を拝見して福田こうへいさんの人柄を知ることができて良かった。ただただ楽しく拝見した。岩手の誇りのような方だと思った。他の委員も話していたが、体調管理や喉のケアなど、どういう事を気をつけているのか知りたかった。

委員 コンサート会場入りからコンサートの模様、コンサート直後のステージの上でのインタビューが、歌手・福田こうへいさんのオーラを感じる良い演出だった。コンサートや握手会を通して「心に残るように、お客様を大切にしている」という言葉には感銘を受けた。「自分に嘘をついてはやりたくない。標準語ではぎこちないので、岩手の田舎くささを全国に持っていく。」という言葉は心に残った。スターなのに飾らない実直さの人柄が出ていた。サラリーマンから転職したというお話だったが、そのあたりももう少し詳しく聞きたかった。インタビューと答えが若干噛み合わない感じがした。柴柳さんがいろいろ質問をするが、期待とちょっと違った感じがした。そこがすっきりしなかった。以前の番組審議会で、柴柳さん「対談は打合せと違う内容になることも度々ある。台本通りに進めようと思ってしまうと、それにとられてしまうので、打合せと違う話が出た時、その場で返ってきた言葉に合わせて話すように心がけている。」という話をされていたが、まさに今回はその苦労が画面にも出ていたと思った。福田さんのこれまでの道のりを語ってもらえるように誘導しているのが伝わってきた。アシスタントの久慈さんもキレイで将来有望な人だと思うが、コメントがまだ少し物足りなかった。タレントさんなので、同じ業界に

いる人としての質問があるとよかった。華があつてよいとは思ふ。

委員長 福田さんの人となりがよく出せていたと思う。とんでもなく人気があると分かった。あの熱気と会場の女性たちの喜びように驚いた。それくらい人気があるのだと思った。最初の場面で車から降り、孫を連れて来ていた女性と話をするタイミングなどはよくとらえられていて、あの場面だけで福田さんの人柄が分かるような感じがした。もう少し起伏をつけて、福田さんが言っていることをファンやスタッフ、誰かに裏付けてもらうような映像が入っていてもよかったと思う。少し物足りなさを感じた。「MC」という言葉がテロップで出ていたが、イメージが湧かなかった。MCという言葉は果たして視聴者向けの単語かと違和感を覚えた。できれば岩月さんの歌と、こうへいさんの歌を合わせて聞きたかった。デビュー前の民謡を歌っている映像などが紹介されれば、ヒットするまでの過程を感じられたと思う。ただ、全般的には福田さんの想いが上手く引き出せていた。

局側 トーク番組ですので、いかにテーマを深めていくかということが重要ですから、普段は収録は1時間近く行って編集しています。この回は収録時間が短く制限されており、20数分で行ったため、アウトラインの話しか伺えなかった事情があります。歌を聞きたかったという意見ですが、福田さんの歌は大事な商品なので、事務所とのやり取りの中で制限がありました。アシスタントの久慈暁子はプロのモデルですが、現状では全く喋りの訓練は受けておりませんので、いわゆるアナウンサーのような受け答えは難しいです。喋りに関しては柴柳が専門家ですので、どんどん深めていくことが出来る、それを逆に視聴者と同じ目線で引き戻すような立場でもらっています。この番組はゲストの意外性ある話に期待して制作しています。プロフィールであらかじめ分かっていることがあっても、実際に柴柳がお話を伺うと驚くことがいろいろ出てくる。意外性や驚きを大事にして番組を構成しています。

局側 収録に臨む前にディレクターとの間で共有する想定はあるのですが、実際には話を聞いていく中でどんどんずれていきます。ずれたらまた引き戻しながらやっていますが、平均すれば正味28分番組で40分から50分くらいは収録で話を聞きます。今回は実質30分もない収録時間だったので、余計な事は聞けなかったのですが、「歌があれば上手い福田さんだが、若い頃お父さんに対して反発していた頃は歌うということはないのか」「民謡は嫌だったけれど高校の友達とカラオケに行き歌ったことはないのだろうか」「いつから歌が上手かったのか」ということはこだわって伺った。結果的には、高校時代から抜群に歌が上手かった、友達がみんな福田さんの後に歌うのは嫌だというくらいだったというエピソードが出てきた。普段語られないところをなんとか1つでもいいから引き出そうという積み重ねで、1つの番組になっています。ずっとニュースキャスターをやっているため、視聴者には「堅苦しい」という印象を持たれているかもしれないが、この番組を始める前に「もっと気軽にいろいろな人に食い込んでいく番組をやらないか」という話が社内

であった。いざやってみると、なかなかそうもいかず、ゲスト側から“この事は聞かないでください”という制限がつくことも結構あります。ただ、その制限を意識し過ぎて聞き手が緊張していると、ゲストもつられてしまいますので、そこはいかにこちら側が肩肘張らずに相手の懐にくいこんでいくかという点がトーク番組の妙だと思っています。これからも精進して励みたいと思います。MCという言葉は馴染みが無い方もいるかもしれません。言葉の使い方に配慮が足りなかったと反省します。